

平成29年 日本建築士会連合会賞

審査総評

全国22建築士会より84点の応募があった。建築種別は住宅(共同住宅含む)が35点、施設(公共施設・学校・医療・寺社仏閣等)が33点、事務所・店舗が16点であった。4月20日に8人の審査委員出席のもと書類による第1次審査を行い、以下の現地審査対象作品21点を選んだ。

ヤマノイエ、茨城育成園、日本無線技術センター、八十二銀行研修所、ITOYA 荒町ラウンジ、ONE YEAR PROJECT、海野宿滞在型交流施設うんのわ、TSURUMIこどもホスピス、Kamikatz Public House、YKKファスナー専用機械部品工場、豊中市立文化芸術センター、大塚グループ大阪本社 大阪ビル、代々木テラス、広島学院創立60周年記念事業 講堂・聖堂、うちのうち、雪ノ下の家、梅郷礼拝堂、矢吹町中町第二災害公営住宅、[BEAMS]、枚方T-SITE、東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟である。

6月9日より7月14日にかけて、1グループ2人以上の審査員によって現地審査が行われた。7月28日に審査員全員参加のもと、最終審査が行われた。現地審査に携わった各作品の評価をもとに全員で討議を行い、優秀賞、奨励賞、その他に概ね分類し、さらに21作品の評価の確認を行い、優秀賞4点、奨励賞12点が選ばれた。

優秀賞4点は枚方T-SITE(商業施設)、豊中市立文化芸術センター(市民ホール)、雪ノ下の家(住宅)、海野宿滞在型交流施設うんのわ(宿泊施設のリノベーション)である。12点の奨励賞の中で大塚グループ大阪本社 大阪ビル、東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟、YKKファスナー専用機械部品工場、Kamikatz Public House、梅郷礼拝堂の5作品は優秀賞にはならなかったが、見ごたえのある作品であったことを付け加えたい。

奨励賞の数が多いのではないかという意見もあったが、ひとつに

は応募作品の質の向上によるものであり、現地審査を行った評価を踏まえての結果でもある。奨励賞をとった皆さんの次なる作品を期待したいという審査員の想いが込められていると思っていただきたい。

優秀賞の枚方T-SITEと豊中市立文化芸術センターについて関心をもったのは、立地条件の異なる施設の「ひろば」に対する思考の違いである。

枚方T-SITEは枚方市駅前の2層の広場に接続する商業施設である。従来の閉鎖的な店舗とは異なり本を通した新しいライフスタイルを提案し、街にリビングをつくらうという新鮮な考え方である。そのために回遊性のある平面と吹抜けを各所に配した断面構成、透明なファサード、立体的に積まれたテラス等が設けられ、駅前広場と連なるリビングとして人々の憩いの場となっている。

一方、豊中市立文化芸術センターは、鉄筋コンクリート組積構造では日本初となる大規模建築である。壁式構造に適わしい明快なプランは、大ホール、小ホールと市民のための広場と有機的に結合し、市民が内なる広場を楽しむ文化芸術センターである。構造と意匠を併せもつプリミティブな壁が連続するが、暗い落ちつく内部空間と言える。2つの作品を同時に審査する機会を与えられたことは、私にとって幸運なことであった。

[お願い]

沖縄や北海道をはじめ47都道府県よりまんべんなく応募があり審査員は毎年楽しみにしているが、最近、大都市からの応募がやや少なくなっている。特に大手設計事務所、大手ゼネコン所属の建築士からの応募が少なくなっている。

日本建築士会連合会賞は建築士個人に与えられる賞であり、担当した自信のある作品の応募を期待しております。

作品審査委員長 村松映一